

香取市 御中

まちづくりワークショップ

提 案 書

平成 19 年 3 月

〔産業・経済グループ〕

【目次】

1 . 香取市の課題・問題点について.....	1
(1) メンバーの意見.....	1
(2) メンバー意見の「課題」の集約.....	2
2 . 産業・経済分野におけるまちづくりの方向性.....	3
(1) 「農業」について.....	3
(2) 「商工業」について.....	4
(3) 「観光」について.....	4
(4) 「人口対策」について.....	5
(5) その他の分野の事業提案.....	5
3 . メンバーからの事業提案内容.....	6
(1) 「農業」に係る事業提案シート.....	6
(2) 「商工業」に係る事業提案シート.....	12
(3) 「観光」に係る事業提案シート.....	16
(4) 「人口対策」に係る事業提案シート.....	20
(5) 「その他」の事業提案シート.....	30

1. 香取市の課題・問題点について

(1) メンバーの意見

産業・経済グループにおいて、委員から提示された「香取市の課題」を分野別に分けると、以下ようになります。なお「分野」は、農業、商工業、観光の3分野に加え、これらの範疇に入らないものは「その他」として、4つに区分しました。

「農業」に関する意見

- ・地産地消が弱い。
- ・自然、農地が荒れている。
- ・特産品が少ない。
- ・付加価値のある農作物がない。
- ・付加価値のある農作物が知られていない。流通経路がない。(だから売れない)
- ・農業の後継者が不足している。
- ・農産物や農産加工品等地域ブランドの育成が足りない。

「商工業」に関する意見

- ・雇用の場が少ない。
- ・成田、鹿島への動線が整備されていない。
- ・「良い」といわれている立地の特性を活かせていない。
- ・消費が市外へ流出している(市内の商業施設がない)。
- ・観光商業では食べていけない(それだけでは自立できない)。
- ・商店街が閑散としている。
- ・若者の就労の場がない。
- ・商店会や同業者組合の情報の共有化ができていない。
- ・農業事業者との連携(農産物や加工品等のPR等)ができていない。

「観光」に関する意見

- ・観光ルートができていない。
- ・観光の核となるべき小野川が汚い。
- ・佐原以外の観光の掘り起こしが足りない。
- ・観光が産業になっていない(自立できていない)。
- ・市内の各地域のネットワークができていない。
- ・バスの発着所などの観光のターミナルの立地が、実際の観光地とずれている。
- ・観光資源の捉え方が、全体的な広い範囲からしか行われていない。
(観光資源の掘り起こしを小さいエリアごとに行っていけば、もっといろいろないいものが出てくるはず。それをまとめあげていけば、より魅力的な観光地ができるはず)
- ・成田空港を利用する観光客へのアプローチが足りない。
- ・観光名所や文化財等までの案内標識や、その説明看板の設置が十分ではない。
- ・観光マップ、ポスターなどの準備が十分ではない。
- ・地域のイベントを中心とした観光地づくりができていない。

「その他」の意見

- ・人口が減少している。少子高齢化が進んでいる。
- ・広い道路がない（観光、商工業などに有効な）
- ・財政力が弱い（何をやるにしてももともとなるもの）
- ・市の施策が観光に偏りすぎている（商工業にも力を入れて欲しい）
- ・地域懇談会など、市民の意見を吸い上げる機会が少ない。

(2) メンバー意見の「課題」の集約

「農業」「商工業」「観光」「その他」の4分野それぞれの課題を集約し整理すると、以下のようにまとめられます。

A . 農 業	<p>農地、自然の荒廃 後継者不足 特産品、ブランド品の不足 特産品の知名度の不足 流通経路の未整備</p>
B . 商工業	<p>雇用の場の不足（商業・工業） 経営者の意識の低さ（商業） 消費の市外への流出（商業） 農業事業者との連携不足（商業） 観光商業体制の未整備（商業） 情報の共有化の未整備（商業） 立地特性が活かされていない（工業）</p>
C . 観 光	<p>観光産業の未成熟さ 観光資源（自然）の汚染 観光資源の掘り起こしが不十分 市内の観光ネットワークの未整備 観光客の受入体制が不十分 （標識、案内看板、マップ、観光ルートの整備、ターミナルの位置等） 成田空港利用者へのアプローチ不足 駐車場の不足</p>
D . その他	<p>人口減少、少子高齢化 財政力の弱さ 道路、近隣への動線の未整備 市の施策の観光への偏重 広聴機会の少なさ 行政運営の効率化、職員意識の高揚</p>

2. 産業・経済分野におけるまちづくりの方向性

産業・経済グループにおいて事業を検討していくための切り口（区分）として、まず前項の「農業」、「商工業」、「観光」という3つの産業のカテゴリーを設定しました。また、委員から「人口減少への対策」をテーマとする事業提案が多かったことから、「人口対策」を切り口の1つとして加えました。

以下に、各切り口別のまちづくりの方向性と、その領域で提案する具体的な事業の名称を提示します。（「提案事業」の具体的な内容は、P6以降に詳細を提示します）

なお、例えば「農業」と「観光」のように、複数の分野にまたがる事業提案は、その主な内容が属する区分に分類することとします。

(1) 「農業」について

1) まちづくりのキーワード

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| ・高付加価値農産物の開発 | ・香取ブランドの育成強化 |
| ・「東京の台所」 | ・生産組織の育成 |
| ・販路開拓（直売施設、アンテナショップ、ネット販路開拓等） | |
| ・農業者と商業者の連携 | ・都市消費者との交流 |
| ・行政に頼らない意識 | ・食育への貢献 |
| ・評価と取組みの是正（P D C Aの実施） | ・「ビッグ・ファーム・ビレッジ」 |
| ・エネルギー工場づくり（バイオ、風力、水力の活用） | |

2) 目指すべき基本的方向

農業事業者の工夫と行政の支援による「儲かる農業」の実現

農作物のブランド化、さまざまな販路の開拓、自らの事業に対する評価の実施などといった前向きな取組みを農業事業者が自発的に行うことにより、十分に利益が上がる「儲かる農業」の実現を目指していきます。また、組織の育成や施設の整備など、必要なサポートを行政が実施することにより、その体制をより確かなものとしていきます。

3) 実施すべき事業の提案

提案事業名	
(1) -	地域ブランド 販路開拓事業
(1) -	農業生産振興総合計画の策定
(1) -	地域ぐるみの販売戦略
(1) -	ビッグ・ファーム・ビレッジ構想
(1) -	農業エネルギーサイクル事業

(2)「商工業」について

1) まちづくりのキーワード

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| ・高齡化、人口減少（実際のニーズ）への対応 | ・コンパクトシティに向けた取組み |
| ・個店の特色・強みを出す（一店逸品） | ・イベント等のソフト事業の強化 |
| ・環境対策への取組み（エコバッグ持参運動） | ・商業者組織の強化 |
| ・起業家育成（ITビルの設置） | ・事業者同士の連携 |
| ・転業、廃業支援～やる気がある事業者のみによる商業構造の再整備 | |

2) 目指すべき基本的方向

現状と今後の動向を見据えた、現実的な商工業の振興

少子高齡化とそれを背景としたコンパクトシティ化の動き、環境志向の高まり、また転・廃業のニーズがあること、などといった現状、及び今後予想される動きを十分に踏まえた上で、それに対応したより現実的な商業、工業の振興を行っていきます。

3) 実施すべき事業の提案

提案事業名	
(2)-	商工業者活性化ビジョンづくり事業
(2)-	電脳起業家育成事業
(2)-	転業・廃業支援事業

(3)「観光」について

1) まちづくりのキーワード

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・観光ポイントの多様化 | ・グリーンツーリズム |
| ・観光マップ、案内標識・看板の整備 | ・河川環境の整備（小野川、黒部川） |
| ・観光客用駐車場の整備 | ・化粧室の整備 |
| ・小野川沿いの車輛進入対策 | ・香取街道沿いの歩行者対策 |
| ・ボランティアによる活動の推進 | ・水上スポーツの拠点づくり |

2) 目指すべき基本的方向

住民と行政が一体となって、観光客の目線で心からもてなす体制づくり

一人ひとりの住民が観光客へのホスピタリティの心を持ち、受入れ体制づくりから実際の受入れまで、自らができることに主体的に取り組む、またそれを行政との連携により一体的に進めていく、という文化があるまちを目指していきます。

3) 実施すべき事業の提案

提案事業名	
(3) -	観光推進活性化事業
(3) -	東京の台所（佐原、小見川、山田、栗源の4事業）
(3) -	グリーンツーリズムの推進

(4) 「人口対策」について

1) まちづくりのキーワード

《定住人口対策》	
・若年層の転出	・雇用の場の確保（企業誘致）
・団塊世代の取り込み	・余暇を楽しめる受け皿の整備
・医療・救急体制の充実	
《交流人口・半定住人口対策》	
・大学、専門学校、農業研究施設の誘致	・学会会議、展示会等の誘致
・滞留時間の長期化による消費拡大	・「地理」と「農業」（地域資源）の活用

2) 目指すべき基本的方向

<p>活力と心地よさにあふれた、長い期間滞留しやすいまちづくり</p> <p>雇用の場の確保、大学等の誘致に加え、団塊世代などが「住み心地がよい」と感じる仕組みづくりを進め、定住人口、交流人口ともに「長い期間ここにいたい」と思えるようなまちを構築していきます。</p>
--

3) 実施すべき事業の提案

提案事業名	
(4) -	水と緑のテクノシティー構想
(4) -	団塊世代の香取市への定住誘致事業
(4) -	農業・畜産の短期大学または大学の誘致
(4) -	国際会議を含めての学会会議・展示会・研修・体験学習の招致事業

(5) その他の分野の事業提案

提案事業名	
(5) -	小野川浄化作戦 2007
(5) -	里山・里川保護指定管理者制度
(5) -	福祉のまち構想
(5) -	市機能ネットワーク化事業

3. メンバーからの事業提案内容

(1) 「農業」に係る事業提案シート

「事業提案シート」 (1) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 特産品、ブランド品の不足
- A - 特産品の知名度の不足
- A - 流通経路の未整備

2. 上記課題を解決するための「事業」名

地域ブランド販路開拓事業

3. 事業の目的

- ・有機農産物など消費者ニーズに対応した付加価値商品の開発と、そのための技術開発の支援、加工・流通施設の整備、商品の種類や内容の充実を推進する。

4. 事業の概要

- ・特産品に生産者名・生産方法等を表示し、他の商品との差別化を図る。
- ・市内のイベントや朝市・青空市等における販売施設の充実、道の駅(栗源)風土村(山田)等における特産品や農産物の直売施設の充実と整備を図る。
- ・隣接市町村との提携や交流により、都市部(東京)においてアンテナショップを開設し、特産品の直売を推進する。また、ホームページを立ち上げて、インターネットによる販路の充実を推進する。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々か、行政：どの部署か）

- ・特産品の開発を考えている方（農業者、商業者、一般の方）
- ・特産品を取り扱うことができる施設の代表者
- ・農協（青年部・女性部）商工会（青年部・女性部）
- ・朝市、青空市等における関係者
- ・商店街・商店会等の代表者
- ・農政課、商工観光課または産業振興課

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か、いつ頃を目処に進めていくか）

- ・平成 20 年度末を目処に進めてゆく。

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・道の駅（栗源）風土村（山田）等の販売施設
- ・市内のイベントや朝市・青空市等
- ・隣接市町村との提携や交流による都市部（東京）のアンテナショップでの間借り

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：付加価値商品の開発と販路の開拓、商品の種類や内容の充実に努める。
- ・行政：技術開発の支援、加工・流通施設の整備を推進する。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・地域資源を活用する人・起業グループ・事業者と農協や商工会などの団体間の交流の場を促がす体制の整備が必要である。
- ・付加価値の高い商品を生産することで、農産物の売上増加を図り、安定した収入の確保を目指す。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・地元の特産品を学校給食に取り入れれば、地産消費につながり子どもたちの食育にも貢献できると思う。
- ・都市部（東京）でアンテナショップを開設することにより、少なくとも都市の消費者との交流ができると思います。その交流を通じて農産物や農業への理解も生まれ、付加価値の高い特産品の消費拡大が図れる。また、農業体験型施設を充実させれば、観光にも少なからず寄与できると思う。
- ・特産品の開発等を考える研修会や講習会を開催し、地域農業における担い手となるリーダーの人材の育成や確保につなげていく。

「事業提案シート」 (1) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 特産品、ブランド品の不足
 - A - 特産品の知名度の不足
 - A - 流通経路の未整備
- (付加価値の高い農産物、農産物の加工開発、流通マーケット、ブランド作物の育成)

2. 上記課題を解決するための「事業」名

農業生産振興総合計画の策定

3. 事業の目的

- ・食の安全をふまえた農業・商業の担い手、地域リーダーの育成・支援

4. 事業の概要

- ・香取ブランド・高付加価値商品、生産組織の育成・支援、香取農業シンクタンクの整備、食育問題等に関する計画の策定。
(計画にマネジメントシステムを取り入れ、自分を是正し、他に評価してもらう)
- ・後継者対策として、農業後継者に対する研修会・講習会の開催、若い人の交流会への参加の促進(配偶者対策)についても盛り込む。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々が、行政:どの部署か)
 - ・行政:企画政策課(総合計画・行政改革) 農政課(農林水産の振興、企画、支援)、
商工観光課(産業施設の企画、振興)、職員課(職員の研修)
 - 市民:(仮)部門別実践委員会
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・短期。P.D.C.Aによるスパイラルローリング
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・全域(佐原・小見川の米、山田の葉物、栗源の甘藷、等)
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・市民:食育、付加価値農産物、加工、ブランド作物の生産
 - ・行政:加工、開発、流通マーケット、育成振興
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・P.D.C.Aサイクルによる実践取組み
 - ・部門別実践委員会の設置
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・農業、商業、流通、香取ブランドの育成
 - 農業シンクタンクによる評価、是正。T.Q.M.C

「事業提案シート」 (1) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 特産品、ブランド品の不足
- A - 流通経路の未整備

2. 上記課題を解決するための「事業」名

地域ぐるみの販売戦略
(地域ブランド販路開拓事業、付加価値の高い農作物を生産する農業者への支援充実)

3. 事業の目的

- ・地域農産物の販売額向上

4. 事業の概要

- ・地域農産物をPRする組織づくり
- ・付加価値農産物(ちばエコ農産物も含め)への取組み支援
- ・地域を代表するような新たな農産物の導入

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々が、行政:どの部署か)
 - ・JA、業者、任意組合などと行政を含めた組織
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・PR組織はすぐにでも
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・市全域
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・市民:高付加価値商品生産の取組み、販売のための組織づくり
 - ・行政:事業者による高付加価値商品生産の取組みへの支援
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・農業者、農業団体の連携
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・地域農産物の販売額

「事業提案シート」 (1) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 農地、自然の荒廃
- A - 後継者不足
- A - 特産品、ブランド品の不足

2. 上記課題を解決するための「事業」名

ビッグ・ファーム・ビレッジ構想

3. 事業の目的

- ・既存の農業を活性化させることで、そこに後継者が育つと共に、観光の場として人が集まり、地域を活性化させる。

4. 事業の概要

- ・市の運営する第3セクター「ビックファーム」に既存農業従事者が自分の農地を担保として提供し、それをビックファームは証券化して提供分に応じて配分する。
- ・農業従事者はビックファームの職員として勤めると共にビックファームの収益を配当として受け取る仕組みを作る。
- ・他にも参加したい人は現金で証券を買うこともできる。
- ・ビックファームは地域の農業活性化のための事業を行う。
例) 農業インターンシップ、リゾート型農業者経営育成、子どもたちとの農業交流、「東京の台所」として出荷協定を東京の市場、生協、飲食店等と結ぶ、など。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・市民:現に今農業に従事している人と、それを応援したい人。
 - 行政:立ち上げに関する法律の整備と経営陣との仲介。
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・中長期的事業。3年後の立ち上げ、そこから5年以内の事業黒字化を目指す。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・特定の中心地域を設定するが、市内どこでも巻き込み、支所化する。
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)・市民:事業への参加。
 - ・行政:出資金の50%以上を負担するオーナー(企業)探し。法整備。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・出資金の50%以上を負担してくれるオーナー(企業)を得ること。
 - ・失敗すれば自分の農地が無くなる等のリスクを参加者が受け入れること。
 - ・中心地域としてまとまった土地が得られること。
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・成功すれば、企業が農業に参加することを促進すると共に、モデルケースとして全国の農業改革につながる。
 - ・成否の結果は事業が黒字化し、配当が定期的に出ること。

「事業提案シート」 (1) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

B - 農業事業者との連携不足

2. 上記課題を解決するための「事業」名

農業エネルギーサイクル事業

3. 事業の目的

・きたるべきエネルギー不足の時代への対応。エネルギー自給率向上とエネルギーの商品化。

4. 事業の概要

・市によるエネルギーの自給自足を考え、ここでは、農地転作しバイオエネルギー転化できる農作物の研究と利用を研究する。具体的には、エネルギー転化できる農作物の研究栽培と共に風力・水力も利用し、水から水素を取り出すことも含めてエネルギー工場づくりを目指す。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)

・NEDOなどの公団?

(2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)

・中長期的計画。3~5年のうちにスタートし、10年以内の黒字化を目指す。

(3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)

・利根川の流域がいいと考える。水、風、太陽が豊富であるため。

(4) 役割分担(具体的に何を取組むか)

・市のエネルギー自給率を算出し、その安定供給のための指針を作成する。それを元に事業の必要性和規模を検討する。

(5) 実現のために重要と考えられること

・単に採算性のみにとらわれることなく、安全保障・生活保障の観点からも事業を検討して欲しい。

(6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)

・エコエネルギー都市となれば世界中から視察が訪れ、住民満足度も高まり人口の増につながる。結果は10年以内の事業の黒字化がなされるかどうか。

(2)「商工業」に係る事業提案シート

「事業提案シート」 (2) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- B - 経営者の意識の低さ
- B - 情報の共有化の未整備

2. 上記課題を解決するための「事業」名

商工業者活性化ビジョンづくり事業

3. 事業の目的

- ・高齢化社会・人口減少社会において求められるコンパクトなまちづくりに向けた取り組みを視野に入れ、地域、行政と連携を深めながら更なる発展を図る。

4. 事業の概要

「お客さまの声に responding していくこと」を基本とし、高齢化社会・人口減少社会に対応できる環境の整備を目指し地域商業の活性化を推進する。

高齢化に伴う地域住民の生活や消費者ニーズへの変化に対応した品揃えや住民サービスの取り組みを図る。

個々の店舗の特色・強みを活かし、「一店逸品」の商品開発を進め、地域商業の活性化に努める。

消費者へエコポイント等を提供して、マイエコバック持参運動の普及に努め、行政と連携しながら地域環境を考える取り組みを図る。

コンパクトなまちづくりに向けた取組みとして、地域のイベントやまちおこし事業等に協力し、地域に密着した事業の展開を図る。

イベント等のソフト事業、商品券、スタンプやエコポイント等に付加価値を付け、購買力の地区外流失防止に努める。

市内のNPO(非営利団体)への助成など、公益的な役割をPRするとともに商業者組織の強化を図る。

異業種間との交流や市内における同業者の情報の共有化を図りながら、地域経済の活力向上に努める。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々か、行政：どの部署か）

- ・ 商業者、農業者、消費者
- ・ 農協（青年部・女性部）、商工会（青年部・女性部）
- ・ 朝市、青空市等における関係者
- ・ 商店街・商店会等の代表者
- ・ 商工観光課または産業振興課

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・ 平成 20 年度末を目処に進めてゆく。

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・ 香取市の商業者
- ・ 市内の商店街や商店会組織

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・ 市民：地域のイベントやボランティア活動（エコ・リサイクル運動）等に積極的に参加をし、自ら地域に密着したコンパクトなまちづくりの実践に努める。
- ・ 行政：商店経営者、後継者の研修や異業種間との交流を充実させ、消費者のニーズにあった商店経営の改善を支援する。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・ 商店経営者と後継者や各地区の商店街および商店会同士の交流と勉強会
- ・ 一般消費者からの意見や要望に対応できる場の整備
- ・ 佐原商工会議所と香取商工会の商工業関係事業における交流と連携が必要

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・ マイバック持参運動が充実すればゴミの減量化に貢献できる。
- ・ お互いの問題点を話し合い、良い所を取り入れれば良い意味での競争心が生まれ、活性化に繋がっていくと思う。
- ・ 商店経営者の意識改革に結びつくようになって欲しい。

「事業提案シート」 (2) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

B - 雇用の場の不足

2. 上記課題を解決するための「事業」名

電腦起業家育成事業

3. 事業の目的

・インターネットを利用した事業を興すための場を提供することで、若者の就業の場が生まれる。

4. 事業の概要

・小見川区区役所を小見川中学校内に移し、旧小見川役場を「ITビル」として(逆にして、小見川中学校を小見川ヒルズとするのも有り?)、そこを起業家の初めてのオフィスとするとともに、そこで起業しようとする者同士が情報交換、提携できる場所とする。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・インターネットカフェ事業者と行政の協働。
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・その気になればすぐ。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・小見川区。
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・区役所機能の早期移転。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・インターネットカフェを1階部分に入れることで、事業費全体をまかなう。
 - ・高速のインターネット環境を整える。
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・パチンコ屋に通っている層が1階のインターネットカフェに集まるようになり、その中から起業家が集まるようになれば、と思う。

「事業提案シート」 (2) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

B - 観光商業体制の未整備

2. 上記課題を解決するための「事業」名

転業・廃業支援事業

3. 事業の目的

・本当はもう辞めたい商店に撤退していただき、その場所を有効活用することで活気ある商店街を取り戻す。

4. 事業の概要

・佐原駅前をモデルケースに、駅前商店街の土地をいったん市が全て買い取る。事業を続けたい商店は旧十字屋内に佐原駅前横町として存続してもらおう。開いた土地は何もしないで巨大駐車場として、バスステーションとパークアンドライドの拠点とする。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体(市民:どのような方々が、行政:どの部署か)

・市町村版民事再生機構を創設?

(2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)

・その気になればすぐ。

(3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)

・佐原駅前。小見川駅前も可。

(4) 役割分担(具体的に何を取組むか)

・再生機構をまず立ち上げる。

(5) 実現のために重要と考えられること

・地元住民との綿密な話し合い。そのときに「うちは何代何百年やってきた」などの過去の実績や情緒論を排除し、今何ができているのか、これから何ができるのかに焦点を当てて話し合う。

(6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)

・商店街としてまとめ、それが活性化・相乗効果を生む。車社会の交通の拠点ができることでターミナル地点として市内全域の発展拠点ができる。

(3)「観光」に係る事業提案シート

「事業提案シート」 (3) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- C - 観光資源の掘り起しが不十分
- C - 観光客の受入体制が不十分

2. 上記課題を解決するための「事業」名

観光推進活性化事業

3. 事業の目的

- ・ 自然の景観を活かした魅力ある観光名所の整備と保全を推進する。

4. 事業の概要

小野川や黒部川の自然環境や歴史を考慮して、河川環境の整備と保全を図る。
河川の両側に季節の花を植え、遊歩道を整備する。
野鳥の観察ができる公園の設置
利根川水系の河川を中心に、水上スポーツの拠点づくりを推進する。
カヌー体験教室、貸しボートやヨット
休憩所となるレストハウス
水上スキーやレガッタ等の大会会場の誘致
幹線道路から観光名所、文化財等名勝地までの案内標識や説明看板の整備を図る。
写真や絵で名勝地の場所が分かる観光マップの作成
年間イベント情報マップの製作
その他
自然環境を活用したドッグラン場の設置

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々か、行政：どの部署か）

- ・商工会議所や商工会関係者
- ・水辺の生き物や野鳥の生態に詳しい方
- ・野草等の植物に生態に詳しい方
- ・カヌーや水上スキーやレガッター等の指導ができる方
- ・一般市民
- ・商工観光課

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・3～5年を目処に進めていく

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・利根川水系の河川を抱える地域

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：ボランティア活動を推進し、施設周辺の保全活動等に参加をする。
- ・行政：既存の資源や施設を十分に活用しながら施設の再整備を図り、河川周辺の道路等の交通網や情報網といったネットワークに関する基盤施設の整備を推進する。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・市民からのアイデアを吸い上げ、実現できそうな所から行政で支援を行なう。
- ・従来の行政と民間といった垣根を越えた意見交換や議論するなどのルールづくりの場が必要。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・教育、生涯学習、文化面に波及できる。
- ・河川の保全を市民参加で行なえば、河川や水質の環境も変化をしてくる。
- ・観光マップに店の商品や位置を写真入で紹介し、広告収入等でマップの作成費用の軽減を図る。

「事業提案シート」 (3) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 後継者不足
- A - 特産品、ブランド品の不足
- A - 特産品の知名度の不足
- B - 雇用の場の不足
- B - 消費の市外への流出
- B - 農業事業者との連携不足
- B - 情報の共有化の未整備
- C - 観光資源の掘り起こしが不十分
- C - 観光客の受入体制が不十分

2. 上記課題を解決するための「事業」名

「東京の台所」(佐原、小見川、山田、栗源の4事業)

3. 事業の目的

- ・香取市の強みを余すところなく発揮し、農業を夢のある産業に育てる。

4. 事業の概要

- ・おいしくて安全な農産物や畜産物を生産し、通販やインターネットを通じて販路を確保する一方、佐原区や小見川区にはレストランや販売店を出店させる(極力既存の建物を利用する)。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・市民: 農業者や畜産農家の方々
 - 行政: 農政課、商工観光課、環境安全課、自治振興課等
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・平成20年に着手し、約10年掛けて育成する。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・各区毎に着手。状況次第で統合も視野に入れる。
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・市民: 農業や化学肥料を抑えた野菜や米の生産者、抗生物質の量を抑えた畜産農家への呼びかけを行う。
 - ・行政: 予算措置を行う。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・メシの食える農業の仕組みを生み出す。
 - ・ここで働く人は全て平等の精神を貫く。

「事業提案シート」 (3) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- C - 観光資源の掘り起こしが不十分
- C - 観光客の受入体制が不十分

2. 上記課題を解決するための「事業」名

グリーンツーリズムの推進
(グリーンツーリズムの推進のための仕組みづくり、子どもたち体験農業の推進、都心の子
もたちとの農業交流)

3. 事業の目的

- ・美しい田園風景を活用した都市と農村との交流による地域の活性化
(教育、福祉分野も含めた空間の整備・活用)

4. 事業の概要

- ・受け入れられる施設同士の連携
- ・取組みを行う人の研修
- ・受入期の人の確保
- ・簡易な施設整備への支援
- ・体験施設のPR、情報発信

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・グリーンツーリズム、観光的な農業に取り組む農家
 - ・農政課、商工観光課
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・春から秋
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・市全域
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・市民:情報発信・PR活動、実際の受入時の対応
 - ・行政:「体制づくり」のための支援

(4)「人口対策」に係る事業提案シート

「事業提案シート」 (4) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- A - 農地、自然の荒廃
- B - 雇用の場の不足
- D - 人口減少、少子高齢化
- D - 財政力の弱さ

2. 上記課題を解決するための「事業」名

水と緑のテクノシティー構想

3. 事業の目的

- ・自然や農業に恵まれた立地と歴史的偉人を輩出した土地柄を最大限利用し、香取市に長期的に活力をもたらす事業を展開したい。特に実働若年人口を増加促進させ、同時に最先端の関連企業を特別優遇策で誘致し、就業先の雇用も確保し、若さと活力有る自然と科学の調和の取れたまちづくりを目的とする。

4. 事業の概要

- ・香取市が今後直面する問題の中で若年労働人口の減少があると思います。そしてこの問題こそが香取市の発展衰退の全てのキーワードに成ってくると思います。若者を如何に香取市に定着させ、また他所から流入させるかが中長期的に取り組まなければならない問題ではないかと考えます。それらの打開策として専門大学の新設と関連企業の誘致を考えました。穏やかな自然と農業立地を生かした農業選科大学、または佐原の歴史と文化をベースにした地理、地図、天文学関係の専門大学の新設を考えます。これらの大学は全て企業の協賛を得て設立します。大学と企業が相互関係で造るテクノシティーを構成し、地理と農業の日本の情報と技術の発信基地になってもらいたいと考えます。そしてこの地域が将来の香取市のセンター都市として、商工業行政の中心エリアとなってもらいたいと考えます。
- ・また、専門学校の代替として「農業研究施設」の誘致も有効だと考えられます。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々か、行政：どの部署か）

- ・香取市行政内に長期プロジェクトチームが必要（市民も参加）
- ・世界的な企業の協賛参加が不可欠(例えばデュポン社、その他)
- ・大学の研究者又は私立大学の経営者等

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・1年から3年 研究と準備そして選定
- ・3年から10年 大学建設そして稼働 関連企業の誘致
- ・7年から 人材輩出 準関係会社の優先誘致 都市整備

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・農業選科大学 栗源地区、山田地区
- ・地理選科大学 佐原地区、小見川地区

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：香取市全体での伊能忠敬（**地図の人**）先生の啓蒙運動
農業従事者への事業経営と新技術の研修の徹底
- ・行政：大学設立の準備、企業誘致の為の選定と協賛候補企業への営業活動
将来は、大規模事業者以外は補助は出さない、認めないという指導

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・この構想の実現には、如何に大企業が動いてくれるかがポイント。農業に関しては世界的な食品会社、また地理についても世界的な企業、人工衛星をいつでも利用できるクラスの企業がふさわしい。協賛企業にとってメリットのある大学が作れるかがポイント、市にとっては最大の優遇策を持って迎えられかが問題となる。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・地理気象学と農業は切り離せない関係にあり将来世界の情報の発信基地になることは確実。
- ・若年人口も増え商業や工業も段々と活力が出てくる。
- ・農業も家内的な規模から大規模農業に移行し自然に競争力も付いてくると考える。

「事業提案シート」 (4) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

D - 人口減少

2. 上記課題を解決するための「事業」名

団塊世代の香取市への定住誘致事業

3. 事業の目的

・人口増加による消費の拡大、新しい事業の創生と雇用の拡大により香取市が活性化し、諸税による歳入の増加を目的とする。

4. 事業の概要

・団塊の世代が移住しやすい土地と住環境の整備・開発と余暇時間を楽しく過ごせる受け皿を提供する事業。クライガルデンの様な事業も視野に入れる。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)

市民 下記の基本計画に関する全ての業種。

団塊の世代が求めるライフスタイルに合致した土地(150坪から200坪の広い区画で、木立などの自然を出来るだけ残したままにして、従来型の宅地や造成開発のない土地利用を基本とする。)に西洋風の洒落た居住(価格帯を1200万から1500万円の地場の自然素材を使用した夫婦の部屋と来客用の宿泊可能な部屋がある家)が建てられるスペースを用意し、販売し定住を促進する。モデルハウスの開発と施工(モデルハウス建設に一部市からの補助金)が必要です。モデルハウスは後で安く販売し投資を回収する。

移住定住者に対する余暇の過ごし方の受け皿を構築するために、趣味を満喫できるように近隣に在る各種施設(ゴルフ場・テニスクラブ・乗馬・釣り場・カヌー場、その一画にボートが停泊できる「ボートハウスタウン」等)および各教室(ダンス教室・語学教師・茶道・華道・習字・陶芸教室・家庭菜園やガーデニング教室等)と提携して平日格安で遊ぶことが出来たり、学ぶことが出来たりする特権を与える。また、海外旅行の計画から手配・実施までのサポートが出来る旅行代理店の開設及び各医療関係(ICカードの利用)とも提携して、いつでも安心して診療が受けられる医療体制のネットワークを整備する。また、安全を配慮した散策や散歩道の開発・整備を行う。

行政 どの部署が望ましいか分かりませんので次のような役割を遂行できる部署をお願いしたい。

誘致の販売促進、候補地の選定、自然を残した宅地開発(従来型の造成はしない。)の指導・検査・許可、散歩道や散策道の計画・開発・整備・メンテナンス、各種施設や病院や診療所との提携交渉や提携システムの構築、教室のスペースの貸し出しや指導の先生の雇用促進や支援、など。

また、移住者希望者の中には、古民家の購入に興味を持っている方々がいるので、空き家情報やリフォーム業者の情報を提供する。移住してきた方々の体力は、まだ社会で十分活用出来ますので、香取市でその方々の特殊な才能を十分活用するためにデータベースを構築し、雇用の機会や新しい事業の利用につなげ、今回実施される新しい事業にも参画してもらい今後の香取市の発展に寄与してもらおう。働く場がないと香取市への定住に魅力がうせてしまうことも十分考慮する必要がある。

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・2007年4月頃からまず基本計画案を作成し、2007年10月頃から基本案に基づいて土地の選定を行い、2008年からマーケットテストを兼ねて、小規模なトライアル販売を実施する。このトライアルの結果を見て、2009年の半ば頃から計画を軌道修正しながら本格実施を進める。

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・香取インターから半径10km～15km以内の樹木に囲まれた自然が豊かで、家庭菜園やガーデニングができる景色の良い高台の肥沃な土地が望ましい。

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：事業主体者が各事業の計画案に参画、立案し、賛同した事業者は事業を実施するにあたり自己の責任の元に新しい事業の展開を意欲的に自己完結型で進める。
- ・行政：上記の事業主体で明確化にした役割分担を側面的に指導し支援する。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・目的達成のために市民と行政が創造と知恵を徹底的に出して行くこと。
- ・計画は、テスト販売をしながら途中変更が可能で柔軟性にとんでいること。
- ・市民と行政とのコミュニケーションを密に行うこと。
- ・絶えず市場からのフィードバックや変化を的確に捉えて、計画に反映させること。
- ・PDSCサイクルを大切に、費用対効果を絶えず計りにしてコスト意識を醸成して行くこと。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・地場の建築素材産業の復興、建設業界、リフォーム事業の需要増、インテリア業界、家電の需要増、自動車の需要増、プロパンガス・ガソリン・灯油・電気等のエネルギーの需要が増加する。
- ・定住人口が増加すると、食品や日用品の諸費の消費が増加する。
- ・施設利用税、固定資産税、市民税などの租税の歳入が増加する。
- ・余暇事業、旅行会社事業、警備会社、ソフトウエア、システムインテグレーター等の新しい事業が創生される。
- ・新しい事業の創生により雇用の機会が増大する。
- ・各種教室を開催するのに先生や指導者の新しい雇用が創生される。
- ・これらの新しい事業を推進していくことにより、香取市の行政に一般企業では当たり前の費用対効果、コスト意識と削減、多面選択肢の中からの選択意識が醸成される。

「事業提案シート」 (4) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- D - 市の施策の観光への偏重
- ・市の施策が観光に偏りすぎている。特に、観光客が沢山の人が来ても、現在のままでは見る所が少なく滞在時間が短く、消費の波及効果が薄い。

2. 上記課題を解決するための「事業」名

農業・畜産の短期大学または大学の誘致

3. 事業の目的

- ・日本の食料自給率が諸外国と比較して低い中で、これからの食の安全性と自給率を高めていくための将来の担い手を養成する事を目的とし、香取市の特に農業従事者の若年層の人口を増やすこと。

4. 事業の概要

- ・農業や林業・畜産の大学と提携して、学生を2年間から4年間香取市に定住してもらうための学校誘致事業。この事業を実現するために、香取市内で廃校になった校舎を綺麗にリフォームし、全寮制をベースにした実習や体験が出来るスペースとして再利用を促進する。また、広く海外からの研修生も受け入れ定住を促進する事業。先生や指導者は、実際に日々香取市で農業や畜産で仕事をしている方の知恵と工夫も織り交ぜた実践的な教育の場とする。また、定住してきた団塊の世代の方々のための短期の家庭菜園やガーデニング教室の開催も視野に入れる。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々が、行政：どの部署か）

- ・行政 農業や畜産大学の誘致計画の作成と提携大学を見つけて交渉し、提携先の大学と市民の参画の元に廃校や駅前ビルのリフォーム計画を作成し、検討し推進できる部署。海外からの研修生の受け入れのPR活動の促進も含める。
- ・市民 小見川や佐原の地域の廃校や使われなくなった駅前ビルやデパートを学生の寮にリフォームできる権限を有している市民。農業や畜産の体験が出来る場所、特に廃田や畑を開発・整備に提供できる市民。担保物件だったり、倒産物件だったりで色々な困難が立ちはだかっていると思われるが、解決していく姿勢が必要です。また、後輩を育てていこうとする意欲を持っている農家・林業・畜産に携わっている方々の実践的な非常勤講師の役割もお願いしたい。

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・本年4月頃から誘致計画の作成を開始し、プレゼンテーション用の計画案を10月頃までに作成し、提携先大学との交渉に入る。2009年の4月頃をめどに開校することを目標としたい。

(3) 実施地区（市全域か、どこか特定の地域か）

- ・寮からあまり遠くない場所で、市の路線バスを増便すれば輸送がまかなえる所が一番望ましいが、新たに路線バスを走らせても良い。

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：廃校や寮の整備及び廃田や畑の整備や開発、また学校側と実習のカリキュラムの中で支援できることを明確化する。
- ・行政：提携先大学の交渉のためのプレゼンテーションの作成と提携先大学の選定と誘致交渉を市民と共に行う。交渉の中で問題となったことや要望は市民にフィードバックし検討する。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・市民と行政が目標と役割分担を明確にして、一体となって遂行すること。
- ・困難や壁を良しとしてチャレンジ精神を持って積極的に行動すること。
- ・費用対効果とコスト意識を絶えず基本にして計画を進めること。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・研修を体験した学生の中から、廃田や畑を引き継いでやってみたい卒業生が出て来て、若い年齢層が増加する。
- ・学生が定住することにより、市から流出している若年層の流出が減少する。
- ・学生が寮に住むことにより、食品・日用品や書籍文具の消費が増え商店街の営業時間が遅くなり人通りも増え活気が出てくる。
- ・学生が好むレストランやカフェが増え古い町並みと相対的する新しい町並みが駅前を中心に形成される。
- ・人口が増えることによる税収の増加が期待できる。
- ・廃田・使われなくなった畑・廃校・古いビルがリフォームされて有効利用の道が見出される。

「事業提案シート」 (4) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

D - 財政力の弱さ

2. 上記課題を解決するための「事業」名

国際会議を含めての学術会議・展示会・研修・体験学習の招致事業

3. 事業の目的

・香取市への訪問人口を増大させ、消費と税収の拡大を図る。また、香取市の知名度を増加させ、観光事業にも側面的な支援をすると共に、市民と行政との共同参画事業を立ち上げて、一般企業へ香取市職員を転出させ行政改革の一端になることも目的とする。

4. 事業の概要

・この事業を推進するために新しく箱物を作るのではなく、既存の大きな酒蔵跡や放置されている大きなビルの再利用、交流館の2階の小部屋の利用したり、古民家をリフォームして再利用が出来る様にする。当初の規模に見合う宿泊を伴う学術会議・展示会・研修・体験学習の招致をする。特に、加工や醸成食品関係、バイオテクノロジー、先端技術、企業研修、ガーデニングショー、林業や農業体験学習、などの小規模なコストのかからない招致を行う。

・宿泊施設としては、小見川区にある県の施設「少年自然の家」の機能も利用する。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体（市民：どのような方々か、行政：どの部署か）

- ・共同参画事業 ビルのオーナー、酒蔵保有者、レストランオーナー、食品提供者、宿泊設備提供者、屋外展示会場や駐車場の土地の提供者等と行政が参画して招致事業組合を立ち上げて計画立案し、活動する。

(2) 実施時期（短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか）

- ・基本計画を本年の4月までに作成し、共同参画事業を立ち上げ、本年度中にトライアルのためのリフォームすべき箇所や場所を選定のうえでリフォームを完成し、来年の4月頃からトライアルを実施する。最初は、コストを出来るだけ安くするため、駐車場と会場整備ぐらいのコストで実現できるガーデニングショーなどの屋外展示会を主体に行うことを推奨する。この実施期間中に問題点を抽出して、2009年度の中頃から本格化稼働に向けて進める。この招致事業がうまく軌道に乗った後、行政から一般企業への転出を図り、香取市役所の人員削減の行政改革にもつなげてもらいたい。

(3) 実施地区（市全域か、どこが特定の地域か）

- ・小見川と佐原の中心街。ガーデニングショウや農業学習体験の場としては、栗源や山田町が良い。

(4) 役割分担（具体的に何を取組むか）

- ・市民：発表会や展示場それに付随する駐車場の整備、分課会や討議用の小部屋の整備、IT関連の整備、宿泊施設の整備、レストランや食品提供者のメニューや献立の開発（安全、美味しい、見た目が洒落ている、安い、食べる環境が良いが基本）その他文房具、什器備品の整備
- ・行政：市民との共同事業へ参画する。その中で、各業界への販売促進や招聘活動を市民と共に行う。具体案に対しての補助金の援助。

(5) 実現のために重要と考えられること

- ・当初の計画と現実とのギャップが必ず出て来ますので、そのギャップをいかに埋めていくかの話し合いを十分行い、知恵を創出し、実行に移していく姿勢が重要です。
- ・行政に「おんぶに抱っこ」の姿勢を払拭して、自己完結型の事業を推進する。
- ・費用対効果、コスト意識の醸成。

(6) その他（効果が波及する分野、結果の検証方法 等）

- ・来訪者が増加することにより香取市の知名度が上がり、観光事業にも良い影響を与えます。
- ・来訪者の滞留時間が長いと消費が増大します。
- ・香取市役所の行政改革に寄与する。
- ・来訪者の増加により消費が増大する。
- ・雇用の機会の拡大。

(資料)「事業提案シート(4) - 」作成にあたっての考え方
(メンバーより提示されたもの)

1. 香取市の強み・弱みの分析

強み	弱み
1. 緑豊かな自然が沢山在る。 2. 東京から高速道路で1時間少々に位置。 3. 日本の玄関口の成田空港に近い。 (高速道路利用で約25分) 4. 野外活動のレジャー施設が沢山在る。 (ゴルフ場、乗馬倶楽部、釣り場、等) 5. 肥沃で広大な土地があり価格が安い。 6. 伝統的な祭り・行事や古い町並みが在る。 7. 全国的に知られた日本最古の香取神社がある。	1. 人口減少が継続している。 2. 少子高齢化が進んでいる。 3. 特徴的な地場産業がない。 4. 地元の消費活力が低い。 5. 宅地としての土地利用が進んでいない。 6. 市の財政の歳入が18年をピークに毎年減少傾向にあり財政基盤が弱い。 7. 市の財政の歳出のうち人件費と物件費の比重が高い。

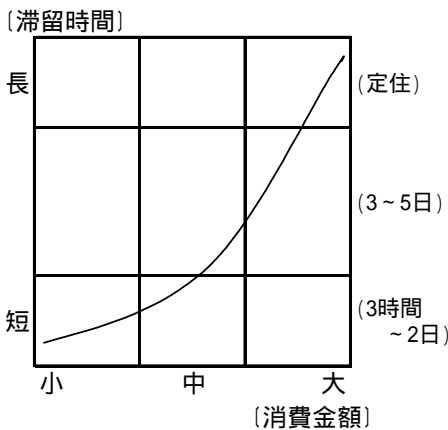
2. 取り組むべき課題

- 人口減少と少子高齢化
- 新しい産業の育成と雇用の拡大
- 市の財政基盤の強化

3. 課題解決のための「滞留時間と消費の関係」の考察

- 人はある一定の場所に留まる時間が長くなると消費金額が多くなる(昨今のショッピングセンター、モール、遊園地の大規模化はこの考え方から進んでいる)。いかに人の滞在時間を長くさせるかの仕掛けも色々工夫して、人を呼び込み消費をさせている。
- 下記の消費曲線()からわかるとおり、いかにして香取市の定住人口を増やし、これらの人々の消費を刺激して、消費拡大を図るかが最優先課題となる。
- また、下記表 からわかるように、C、Eの枠に香取市のリソースを投入することにより消費と雇用の拡大が可能となる。このC枠、E枠への取組みは、当然Gの枠にも良い影響を与える。

滞留時間と消費金額の相関関係



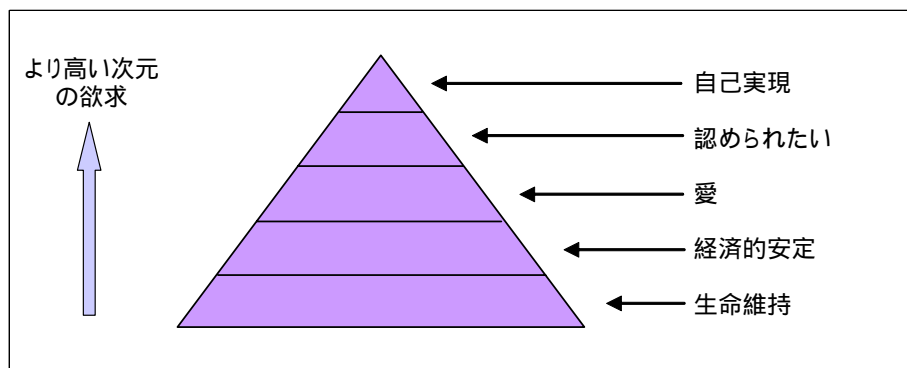
滞留時間と産業・経済の関係(主な例)

長	A. 私設老人ホーム	B.	C. 定住者地場産業
	D. 入院患者	E. 学校・研修・実習 国際会議・学会 クラインガルテン 祭り、イベント	F.
短	G. 観光	H.	I.
	小	中	大

4. 団塊の世代の大量退職について

- ・ 2007年問題として、団塊の世代の大量退職が今年から始まる。この世代は、たえず受験戦争、就職合戦また会社内でのポスト争いで競争社会の真只中を体験してきた。既に子供は独立していて、退職金と年金収入で経済的な基盤は安定している中で、退職後の時間をどのように過ごすかが大きな課題となる。ある調査によると下記のような結果が出ている。
 - 夫婦で海外旅行したい。(かなり豪華な海外旅行。)
 - 海外で暮らしたい。
 - 自分の趣味の時間を大切にして生活したい。(ギター、オートバイ、ヨット、ゴルフ、乗馬、華道、茶道、三味線、書道、柔道、剣道など)
 - ゆっくりのんびり自然の中で、家庭菜園やガーデニングをしながら暮らしたい。
 - まだ体力的にも十分通用するので、働いていたい。 など
- ・ つまり団塊の世代と言われている世代は、下記のマズローの人間の欲求の5段階のうちの「自己実現」を求めている世代であるといえる。

マズローの欲求5段階説



(5)「その他」の事業提案シート

「事業提案シート」 (5) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- B - 観光商業体制の未整備
- C - 観光資源(自然)の汚染

2. 上記課題を解決するための「事業」名

小野川浄化作戦 2007

3. 事業の目的

- ・水と緑と歴史を生かした観光事業や教育の場として活用する。

4. 事業の概要

- ・汚物の流入防ぎ、悪臭を除去する。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・行政(環境安全課、商工観光課)が主体となり、流域住民が協力する。
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か、いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・短期的、中長期的に分けて実施する。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・小野川流域の住民
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・市民:町内会、地域会等を通じて環境意識の啓発を繰返し行う。
 - ・行政:浄化槽の早期普及をはかる。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・市民と行政が一体となった監視団を作り、繰返し指導する。
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・「予算がないから何も進まない」の発想ではなく、身近に出来ることから着手することが肝要と思います。

「事業提案シート」 (5) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

A - 農地、自然の荒廃

2. 上記課題を解決するための「事業」名

里山・里川保護指定管理者制度

3. 事業の目的

・身近な自然環境の保護とそれを通しての住民自治活動の活性化。また、里山、里川が整備されることで、そこが公園等と同じ役割を果たしてくれる。

4. 事業の概要

・NPO団体等を特定地域の「里山・里川」の管理者として指定し、その場所の保護・管理を委託する。また、それを目指す団体に対して、自然保護NPO養成講座の開催とアドバイザーの設置。

5. 事業の具体的内容

(1) 事業主体(市民:どのような方々が、行政:どの部署か)

・自然保護NPO団体かそれに準ずる市民の集まり。PTA、お子安講などでも可能か。
行政は県の事業に連動して動けるのではないか。

(2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)

・短期的には県で仕組みができつつあるのですぐに始められるのではないか。長期的に取り組んでいくことが肝要。

(3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)

・市内全域。

(4) 役割分担(具体的に何を取組むか)

・対象団体の要件を設定し、その団体に望む業務を最低限のラインで決める。そしてモデルケースを募り、とりあえず一つでも二つでも指定を出してはじめてみる
こと。

(5) 実現のために重要と考えられること

・地権者との交渉が必要な場合が考えられるので、その交渉とりまとめ役が必要。
基本的に手を挙げてもらう形だが、市として里山・里川候補地マップを作成することもできるのではないか。

(6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)

・継続的に里山・里川マップを更新して、それが充実していくことが事業の成功と考える。昔里山・里川でさんざん遊んだ団塊の世代の活躍の場、世代をつなぐ場になるのではないか。

「事業提案シート」 (5) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

B - 雇用の場の不足

2. 上記課題を解決するための「事業」名

福祉のまち構想

3. 事業の目的

・福祉人材(介護職、看護職)を集中的に育成することで、市内に福祉産業が興り、若者の就業の場が確保でき、また老年者の移住が促進する。

4. 事業の概要

・ものを作って売るのが産業という考えでは難しい。サービスを売る、という観点から福祉人材を集中的に育成する。まず進学校以外の高校の普通科を基本的に廃止し、全て福祉課にする。卒業生は何らかの福祉資格を持ってすぐに就職できるようにする。また、小中学校期から福祉関連実習を取り入れる。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々か、行政:どの部署か)
 - ・教育委員会
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・その気になればすぐ。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・市全域。
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・この地域での学校の役割の再考。特に高校に進んで何を身につけるべきなのか。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・市内外の福祉施設との連携による実習現場の確保。県の理解。今なら堂本知事の理解が得られ、講師の確保等も進められるのではないか。
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・たとえ福祉職に就かなくてもそうした経験は高齢者や弱者への接客であったり、日常の対応に反映され、暖かなヒューマンサービスが当たり前になるのではないか。長期的には「香取市の人に会いに」観光に訪れる、移り住む人が増えるのではないか。

「事業提案シート」 (5) -

1. 課題(「課題の集約」から選択)

- D - 財政力の弱さ
- D - 行政運営の効率化、職員意識の高揚

2. 上記課題を解決するための「事業」名

市機能ネットワーク化事業

3. 事業の目的

- ・合併したことにより、広がった市の機能を見直し、より住民に近く、より効率的な行政ネットワークを築く。

4. 事業の概要

- ・現在の行政区分けはかなり偏りがある上、旧市町としてのつながりも変化にあわなくなっている。これを見直し、小学校区を基本単位とし、必要ならば中学校区にまとめる。それぞれ校内かその隣接地に事務所を置き、行政サービスも分配する。

5. 事業の具体的内容

- (1) 事業主体(市民:どのような方々が、行政:どの部署か)
 - ・総務課?
- (2) 実施時期(短期的か、中長期的か。いつ頃を目処に進めていくか)
 - ・その気になればすぐ。
- (3) 実施地区(市全域か、どこか特定の地域か)
 - ・市全域。
- (4) 役割分担(具体的に何を取組むか)
 - ・区役所機能・住民サービスの洗い出し。その上で、小学校区・中学校区、市と機能を配分・早期移転する。
- (5) 実現のために重要と考えられること
 - ・各事務所間の通信環境の整備。
 - ・コストをかけないこと。開いた市町舎の有効活用を考える。
- (6) その他(効果が波及する分野、結果の検証方法 等)
 - ・佐原がいい例だと思うのだが、佐原と言うと佐原1中区のことばかり。広く住民の近くに目・耳・手としての事務所が必要。住民の満足度は高まる。地域自治の動きが活発化し、逆に地域の手が動くことで地域自治のコスト自体が下がる。

